



〈2016 H28102020〉

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～11ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意

(1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。

(2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

- 5 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 6 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 7 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

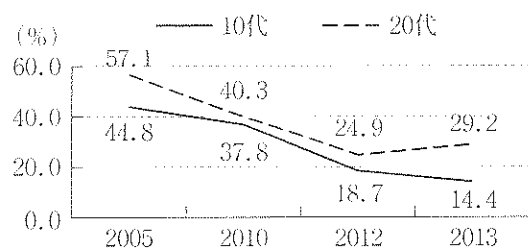
若年層は、既にテレビ等、マスメディア情報への接触が少なくなっているだけでなく、ネット上でも非常に個人的な情報へのやりとりが大半を占めている。コミュニケーション系の情報のやりとりの中心は、身の回りの世界のささいな出来事や個人的な心情である。それによって、彼らの関心はますます狭小化、内向化する。

ニュースもネットで入手となれば、アクセスするのはスポーツやエンタメなどのお気に入りのジャンルだけで政治・経済や外交など、公共的争点には目が行かない。そもそもネットニュースもモバイルで見ることが多く、小さな画面では人念に記事を精読することも難しい。コミュニケーション系の情報のやりとりで政治問題が登場することはほとんどない。実際、我々の二〇一三年調査で「世間のできごとより、自分の身の回りのできごとに興味がある」という質問に対し、一〇代の七二・七％、二〇代の六九・五％が「はい」と答え、他の年層より回答比率が高い。また、「ふだんから政治に対して関心がある」に「はい」と答えた比率は一〇代で一四・四％、二〇代で二九・二％であり、三〇代より上の世代よりかなり低い。この「政治的関心度」は、実際の国政選挙の投票率と非常に高い相関関係にある。

確かに「政治的関心」は、いつの時代でも若年層の方が低く、「年層効果」と呼ばれる現象である。しかし、継時的に見た場合、我々の調査によれば、「政治に関心あり」と答えた比率は、一〇代で二〇〇五年の四四・八％から二〇一三年の一四・四％にかけて大きく減少している。政治関心の低下はネットだけが原因ではないことは明らかである。混乱する政局に対する不信感、政治に参加したくても自分たちは政治を動かす力にならないという政治的無効力感、世の中の動きは政治の力ではどうにもならないという政治自体に対する無効力感等の原因が関係していよう。とはいえ、ネットの利用によって、若者の公共的情報の摂取が減少し、身の回りの世界の情報交換に終始しがちになってきたことが一つの遠因になっているとはいえないだろうか。実際、我々の調査の分析によれば、モバイルネットを長時間利用している人ほど、またソーシャルメディアの利用時間が長い人ほど、政治関心が低く、身の回りのことにしか興味がない、という結果が示されている。

Ⅰ

世論的争点に関する報道で、たとえばテレビでは、キャスターによる解説、討論番組、世論調査報道、識者のコメント等、さまざまな形の情報の提示がある。社会心理学者日・プロシウスらは、ラジオニュースを素材として、世論調査結果等の直接情報より、むしろ個人的意見として出された生の声の紹介の方が「世間議題の認知（世間ではどう考える人が多いかという認識）」に大きな影響を与えることを実験的に検証した。世間議題認知は直接的に個人の意見形成に結びつく。「街の声」や「識者へのインタビュー」をそのままの形で提示したものを「イグゼンブラー（代表例）」といい、その影響をイグゼンブラー効果と呼ぶ。



図

年層にかかわらずネット上では多くのコミュニケーション系情報が消費される。その中でツイッター等のつぶやき系サービスを利用し、カリスマ発信者のツイートを熱心にフォローしている人や、特定のアルファブロガーの記述を日課として読んでいる人も少なからずいる。そうした発信者やブロガーは、まさしく典型的なイグゼンブラーに他ならない。そうした発信者のツイートはフォローだけに共有されるのではなく、さらにリツイートされ、

発言によっては幾何級数的な広がりをもつ。うまく活用すれば、新聞の社説はおろか、テレビの人気ニュースキャスターの呼びかけよりも大きな反響を呼び起こすことも可能である。

Ⅱ

近年、原発問題やいわゆる「ネットウヨ」論争でしばしばネットの議論が組上に載せられ、若年層の意見が極端な方向に傾きつつあることが指摘されている。そうした傾向は、ネット世論形成にまつわる特殊性と無関係ではない。

Ⅲ

社会心理学の領域では、コンピュータを介した会話において、意見が極端な方向に傾きやすいことがつとに指摘されていた。発言の匿名性から、年齢や地位への配慮が無用になり、自己の責任感が低下すること、誇示動機が大きく働き、またリスクで勇ましい意見が注目を浴びやすく、場の雰囲気になぐわれない反対意見や中庸な意見、意見間調整を試みようとする発言が無視されたり罵倒されたりしがちなことによる。「話し合いで友好を図ろう」という発言より、「この際、戦争だ」という発言の方が反響が大きいのは自明であろう。また、シツ掘に、些細な芸能人の過失を糾弾する大規模掲示板やまとめサイトを思い浮かべれば実態の推測は容易であろう。しかも、いったん、ある方向性の声が数件上が

ると、それが「大勢」であるかのような錯覚が生じ「沈黙の螺旋」が始まる。実際の意見分布以上に、輿論がはびこっているように見える一因である。【IV 1】

また、ネットはそもそも自らアクティブに特定の情報源に接触するメディアであるから、どうしても自分と考えるの方向性・枠組みが同じ情報だけにアクセスすることが多く、また、同じ考えをもつ者が集まって議論する傾向が生じる。その方が認知的に快だからである。社会心理学でいう「認知的不協和」の回避である。すなわち、他の立場、考えが、排除された中で、自分たちに都合のいい情報の共有・議論が進む。この現象を音響検査室の共鳴になぞらえて「エコーチェンバー現象」と呼ぶ。原発再稼働反対（あるいは賛成）や地球温暖化問題について声高に議論するコミュニティサイトを見れば、その様を知るのは容易である。

上記で述べた「意見の極化」「エコーチェンバー現象」に巻き込まれやすいのは何も若年層だけとは限らない。比較的学識が豊かで、自らは批判能力があると自任するネットヘビーユーザーがおちいりやすい**カン葬**である。そうした人たちが危ういのは、背後に「確固たる論理」が存在すると信じ込んでいるところである。つまり、彼らが崇拝するカリスマプログラマーやツイート発信者が操る論理に洗脳され、さらにその論理を裏付けるサイトにのみ、次々とアクセスを続ける。反対の論理、反証データの存在は認めようとしない。というか、その存在を脳裡から抹殺する。新聞紙上では、否が応でも時折、気に入らない反対意見も目に入るのとは対照的である。こうした反対意見への **A** はネット社会の発展とともにますます顕著になりつつあるように思われる。

ソーシャルメディアに関連して、もう一つ不気味な現象がある。二〇一三年のあるドラマの最終回は近年にまれな四二％強（関東地区）という高視聴率を記録した。そのドラマに関連するツイートも回を増すことに増え、最終回の日には二一萬七千件に達している。ドラマの中で使われ流行語となった語を含むツイートは合計で三二萬件に達した。各回放送日の、関連するツイート数は視聴率と強い相関を示した。ドラマを見てツイートしたのか、ツイートにつられてドラマにチャンネルを合わせたのかはわからない。おそらく双方の関係が成り立つだろうが、今、後者の現象も少なからず生じたと仮定しよう。そうだとすれば、どれだけ放送時間を使って番宣**（注1）**を行っても、容易に視聴率が上がらなかつたものが、ソーシャルメディアに絡まれば、易々と視聴率が増加したことになる。もちろん、ドラマの中身がそれに応えるものだったからに違いないが、ソーシャルメディアの操作で意図的にいくばくかの視聴率を動かすことが可能にも思える。その影響力の大きさを考えれば、自由な討論が可能で、理想的な民主主義の実現をサポートするように見えるネットメディアという装置が、一方で少数のデマゴーグが跋扈する扇動社会を現出させるバンドラの箱にもなりかねないという危惧を抱かせる。

（橋元良明「ネットワーク社会」による）

（注1）アルファプログラマー：ブログが大きな影響力を持ったり、多くの読者を獲得したりするプログラマー。

（注2）番宣：番組宣伝の略。

問一 傍線部 a、b に当たる漢字を含むものを、それぞれ次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| a | イ | シツ間 | ロ | シツ原 | ハ | シツ業 | ニ | シツ務 |
| b | イ | カン起 | ロ | カン督 | ハ | カン落 | ニ | カン案 |

問二 文中の「図」のグラフは、この文章に添えられたものであるが、何を表したグラフか。最も適切なものを、次の

イ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 一〇代二〇代の政治的関心度
- ロ 一〇代二〇代のネット利用の実態
- ハ 一〇代二〇代の年層効果とネット利用率との相関
- ニ 一〇代二〇代の政治関心度と国政選挙の投票率との関係

問三 傍線部1「その影響をイグゼンブラー効果と呼ぶ」とあるが、「イグゼンブラー効果」の具体例として最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ インターネットの急激な普及によって、新聞や雑誌などの活字メディアが甚大な影響を受け、発行部数が著しく減少したということ。

ロ 原発再稼働問題について、縷々論理を展開するよりも、再稼働に反対する有力な政治家の演説の一部を放送する方が、説得力があるということ。

ハ 文芸の世界ではケータイ小説が根強い支持を集めているが、識者へのインタビューなど読者への影響力が大きな要素を踏まえて、筋書きが随時変更されるということ。

ニ ラジオニュースが、配給システムにおいてかなりの資本がかかるのに対して、大きな資本力を必要としないインターネットを活用して、街の声を配信した方が合理的であるということ。

問四 傍線部2「沈黙の螺旋」とあるが、その説明として最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 大きな声の意見が跋扈し、反対意見は表明が見合せられる現象。

ロ カリスマ発信者の意見が尊重され、多くのフォロワーの意見が軽視される現象。

ハ 実際には決して多くはないのに、ある種の情報操作によって大勢であるかのように見える現象。

ニ 「ネットウヨ」と称される立場による過激な意見が抑制され、自然と大きな流れが形成される現象。

問五 この文章では、「もちろん、ポジティブに賛同を得るとは限らず、一気に関心を覚えることもあり得る。」という文が脱落している。I I I I I のどこに入れるのが最も適切か。次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ I □ II □ III □ IV □

問六 A に入るのに最も適切なことばを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 洗脳・反証

ロ 共有・議論

ハ 不寛容・無知

ニ 批判性・反対

問七 傍線部3「少数のデマゴーグが跋扈する扇動社会を現出させるバンドラの箱にもなりかねない」とあるが、この説明として最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ ソーシャルメディアに絡ませて、ドラマの視聴率を少しでも上げるような努力を重ねることで特定の企業の利益を追求するような状況が、すでに一般的な傾向になりつつあるということ。

ロ ネット社会は本来理想的な民主主義の実現をサポートする方向を目指すはずなのに、ときにはツイート数が幾何級数的な広がりを見せ、結果として世の中を危機におとし入れてしまうこと。

ハ 多くの識者が「意見の極化」「エコーチェンバー現象」に巻き込まれると、ネットヘビーユーザーでもある指導者はその背後に確固たる論理が存在すると信じ込んで、真実が見えにくくなること。

ニ 人をそそのかすような考えを持っている人が、ある特定の思想を民衆に巧みに押しつけて影響力を発揮するような危機的な社会になるという災いが、ネットメディアによってもたらされるかもしれないこと。

問八 この文章における筆者の考え方に合致するものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ イグゼンブラー効果と称される影響力よりも、テレビのキャスターによる解説や世論調査報道など、マスメディアの真の価値が改めて見直されるようになっていく。

ロ 高度情報化が加速してネットワーク社会が到来すると、自分にとって都合のよい情報の共有化がますます進展して、他の立場や考え方が排除されるという傾向が強くなってしまふ。

ハ ソーシャルメディアの操作によってテレビの視聴率までもが影響を受けるようになったことから、様々な側面からセキュリティを強化して、徹底した情報管理を推進する必要がある。

ニ 特に若年層は、ネット上での個人的な情報のやりとりが多くなって政治や経済などの公共的な争点をないがしろにするために、専門家の個人的な見解にも注目しなくなるという傾向がある。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

たとえば勢力不滅の法則が設定されるまでに、この問題に関して行なわれた実験的研究の数はおびただしいものであろう。たとえば大砲の砲腔をくり抜くときに熱を生ずることから熱と機械的のエネルギーとの関係が疑われてから以来、初めはフラスコの水を根気よく振っていると少し温まるといったような実験から、進んで熱の器械的当量が数量的に設定されるまで、それからまた同じように電気も、光熱の輻射も化合の熱も、電子や陽子やあらゆるものの勢力が同じ一つの単位で測られるようになるまでに行なわれて来た実験の種類と数とは実に莫大なものである。

人間の心の法則に従ってわれわれの周囲に起こっている現象はあまりに複雑である。それだけを見て法則をうかがうには何よりも環境条件があまりに漠然としていてつかまえ所がない。そこでわれわれはいろいろの

A

を試み

る。たとえばある一人の虚無的な思想をもった大学生に高利貸しの老婆を殺させる。そうして、これにかけんな町の女や、探偵やいろいろの選ばれた因子を作用させる。そうして主人公の大学生が、これに対していかに反応するかを観察する。これは一つの実験である。ただしこの場合における実験室は小説作者の頭脳であり、試験される対象もまた実物ではなくて、大学生や少女や探偵やの抽象された模型である。こういう模型は万人の頭の中にあるのであるが、すぐれた作者の場合にのみ、それが現実の対象とほぼ同じ役目をつとめることができるのである。そういうすぐれた作者の作品を読むときにわれわれはその作の主人公のすべての行為が実に動かすべからざる法則のもとに必然な推移をとっていることを悟るであらう。【X】

また、ある少女の思春期以前の心の激動の結果が、熱烈な宗教心となって発現する。そうして最も純潔な尼僧の生活から、一朝つまらぬ悪漢に欺かれて最も悲惨な暗黒の生涯に転落する、というような実験を、忠実に行なった作品があるとすると、それを読む読者は、彼女の中に不変なエネルギーのようなあるものが、環境に応じて種々ちがった相を現わし、それが彼女の運命を導いていることを悟るであらう。

このようにして、作者は、ある特殊な人間を試験管に入れて、これに特殊な試薬を注ぎ、あるいは熱した冷やし、あるいは電磁場に置き、あるいは紫外線X線を作用させあるいはスペクトル分析にかける。そうしてこれらに対する反応によってその問題の対象の本性を探知すると同時に、一方ではまたそれらの種々の環境因子に通有な性質と作用のキノウに必要な資料を収集するのである。ただ物質と物質的エネルギーの場合とちがって、対象のすべてが作者の中にあるのであるから、その作者が最も鋭利な観察と分析と総合の能力をもっていない限り、これらの実験が失敗に終わることとはもちろんである。

しかし、こういう実験が可能であるということは古来今日に至るまでのあらゆるすぐれた作品がこれを証明している。シェークスピアとかドストエフスキーとかイブセンとかいう人々は、人間生死の境といったような重大な環境の中に人間をほうり込んで、試験檻の中のモルモットのごとくそれを観察した。しかしまたチェホフのような人は日常茶飯事的環境に置かれた人間の行動から人性の真を摘出して見せた。そうしてわが日本の、乞食坊主に類した一人の俳人芭蕉は、たったかな十七文字の中に、不可思議な自然と人間との交感に関する驚くべき実験の結果と、それによって得られた「発見」を叙述しているのである。

こういうふうにと考えて来ると、ほとんどあらゆる種類の文学の諸相は皆それぞれ異なる形における実験だと見られなくはない。

b 写実主義、自然主義といったような旗じるしのもとに書かれた作品については別に注釈を加える必要はない。すでにそれらのものは心理学者の研究資料となり彼らの論文に引用されるくらいである。

一見非写実的、非自然的な文学であつてもよくよく考えてみるとやはり立派な実験と考え得られないことはない。

たとえば神話を取り扱った超人の世界の物語でも、それらの登場人格の仮面を一枚だけはいでみれば、実は普通の人間である。ただ少しばかり現実の可能性を延長した環境条件の中に、少しばかり人間の性情のある部分を変形し、あるいは誇張し、あるいは剪除して作った人造人間を投入して、そうして何事が起こるかを見ようとするのである。ジュリアンの「ほんとうの話」の大法螺でも、夢想兵衛の「夢物語」でも、ウエルズの未来記の種類でも、みんなそういうものである。あらゆるおとぎ話がそうである。あらゆる新聞講談から茶番狂言からアリストファネスのコメディーに至るまでがそうである。笑わせ怒らせ泣かせうるのはただ実験が自然の法則をケイジする場合にのみ起こりうる現象である。もう少し複雑な法則がケイジされるときにわれわれはチェホフやチャプリンの「泣き笑い」を刺激され、もう一歩進むと芭蕉の「さびしおり」を感得するであらう。

叙事と抒情とによって文学の部門を分けるのは、そういう形式的な立場からは妥当で便利な分類法であるが、ここで

代表されているような特殊な立場から見れば、こういう区別はたいした意味を持たなくなる。

最も抒情的なものと考えられる詩歌の類で、普通の言い方で言えば作者の全主観をそのままに打ち出したといったようなものでも、冷静な傍観者から見れば、やはり立派な実験である。ただ他の場合と少しちがうことは、この場合においては作者自身が被試験物質ないしは動物となつて、試験管なり坩堝^{ようぎやう}なり檻^{かご}なりの中に飛び込んで焼かれじめられてその経験を歌い叫び記録するのである。あるいはその被試験者の友人なり、また場合によっては百年も千年も後世に生まれた **B** が、当人に代わつて、あるいは当人に取り憑かれるか取り憑くかして、歌い悲しみ、また歌い喜ぶのである。たとえば、われわれは自分の失恋を詩にすることもできると同時に、真間の手児奈やウェルテルの歌を作ることもできるのである。

探偵小説と称することきものもやはり実験文学の一種であるが、これが他のものと少しばかりちがう点は、何かしら一つの物を隠しておいて、それを捜し出すためにいろいろの実験を行なう、そして読者を助手にしているものと実験を進めて行つて最後に、その隠したものに尋ねあてて見せる、という仕組みのものである。宝捜しの案内記のようなものである。一方で、科学者の発見の経路を忠実に記録した論文などには往々探偵小説の上乗なるものよりもさらにいっそう探偵小説的なものがあるのである。実際科学者はみんな名探偵でなければならぬ。そうして凡庸な探偵はいつも見当りがいの所へばかり目をつけて、肝心な罪人を取り逃がしている、その間に名探偵は、いろいろなデマやカムフラージュに迷わされず、確実な実証の連鎖をじりじりとたぐつて、運命の神自身のように一歩一歩目的に迫進するのである。しかし実際探偵小説がそれほど必然的な実証の連鎖を示しているかというところ、そうではなくて、たいていの場合には、巧みにそうらしく見せているだけで、実は大きな穴だらけのものがはなはだ多い。換言すれば、実験は実験でも、ごまかしの実験である場合がはなはだ多い。これは無理に変わった趣向を求める結果、自然にそういう無理を生ずる可能性が多くなるものと思われる。しかし読者が容易にその穴に気がつかなければ、少なくとも一時は目的が達^{たつ}し^られる。つまり読者の錯覚、認識不足を利用して読者を魅了すればよいので、この点奇術や魔術と同様である。そういうものになると探偵小説はほんとうの「実験文学」とは違った一つの別派を形成するとも言われるであらう。そういうことらえ物でなくて、実際にあった事件を忠実に記録した探偵実話などには、かえつて筆者や話者の無意識の中に真におそるべき人間性の秘密の暴露されているものもある。そういうものを、やはり一つの立派な実験文学と名づけることも、少なくとも現在の立場からはできるわけである。同じようなわけで、裁判所におけるいろいろな刑事裁判の忠実な筆記が時として、下手な小説よりもはるかに強く人性の真をうがつて読む人の心を動かすことがあるのである。

これから考えると、あらゆる忠実な記録というものが文学の世界で占める地位、またその意義というような事が次の問題になつて来るのである。

(寺田寅彦「実験としての文学と科学」による)

問九 空欄

A

B

に入るものとして最も適切なものを、それぞれ次のイ、二の中から一つ選び、

その解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| A | イ | 社会的実験 | □ | 文化的実験 | ハ | 生活的実験 | 二 | 仮想的実験 |
| B | イ | 伝道者 | □ | 同情者 | ハ | 科学者 | 二 | 冒険者 |

問十

傍線部①、②を漢字で表記する場合、同じ漢字が含まれる語として最も適切なものを、それぞれ次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | イ | 機先 | □ | 既述 | ハ | 帰宅 | 二 | 空気 |
| ② | イ | 天啓 | □ | 形成 | ハ | 掲揚 | 二 | 余慶 |

問十一 「X」に入る文として最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- | | |
|---|-----------------------------|
| イ | 「法則」はあくまでも「実験」の中で成立するものである。 |
| □ | 「模型」は要するに作者にとつての「模型」なのである。 |
| ハ | 「実験」はつまり「大自然」への挑戦なのである。 |
| 二 | 「運命」はすなわち「法則」の別名なのである。 |

問十二 傍線部 a の「ほとんどあらゆる種類の文学の諸相は皆それぞれ異なる形における実験だと見られなくはない」とはどういうことか、この説明として最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ シェークスピア、ドストエフスキー、イブセン、チェホフ、芭蕉、といったすぐれた作者の文学作品は、それぞれに複雑な人間の心の法則を説明していくものであるが、人間の心の法則に関する実験として見れば、そこに共通した形式があると言える。

ロ はほとんどあらゆる種類の文学作品では、一つの実験として、一定の法則のもとに必然な推移が見られるようになっていくが、その前提として、文学作品の作者がその実験に関する鋭利な観察と分析と総合の能力をもっていると言える。

ハ 文学には、人間生死の境といったような重大な環境、日常茶飯事的環境に置かれた人間の行動、自然と人間との交感に関する「発見」など、様々なものがあるが、それらはいずれも人間の在り方の追求をする実験だと言える。

ニ 物理学の現象に比べ、人間に関わる現象はあまりに複雑であるが、あらゆるすぐれた文学は、その作者の頭脳での、心理学的かつ生物学的な実験として、現実の人間の考え方や動きの複雑な法則を説明するものと言える。

問十三 傍線部 b の「写実主義、自然主義」の作品として最も適切なものを、イ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 芥川龍之介『羅生門』

ロ 森鷗外『山椒大夫』

ハ 田山花袋『蒲団』

ニ 夏目漱石『吾輩は猫である』

問十四 傍線部 c 「達しられる」という表現は、現在の一般的な表現ではなく「達せられる」という形になる。この説明として最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 「達しない、達して、達する」という活用ならば上二段活用になるが、この語はふつうサ行変格型の特殊な活用で使われ、「られる」が未然形につくと「達せられる」という形になる。

ロ 「達さない、達して、達する」という活用ならば上二段活用になるが、この語はふつうサ行変格型の特殊な活用で使われ、「られる」が連用形につくと「達せられる」という形になる。

ハ 「達さない、達して、達する」という活用ならばサ行変格活用になるが、この語はふつう上二段型の特殊な活用で使われ、「られる」が未然形につくと「達せられる」という形になる。

ニ 「達しない、達して、達する」という活用ならばサ行変格活用になるが、この語はふつう上二段型の特殊な活用で使われ、「られる」が連用形につくと「達せられる」という形になる。

問十五 この文章における筆者の考え方に合致するものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 人間の心の法則を科学的に分析することは、その環境条件があまりに漠然としている点で難しいが、すぐれた文学作品の作者はそれを作品の中で実験できる。それは彼らが鋭利な観察と分析と総合の能力を持っているからである。

ロ 文学における実験的要素は抒情的な詩歌においても全く同じように成立する。そこでは神話などの超人も実はふつうの人間と同じであり、主人公の行為は、動かすべからざる法則のもとに必然性をもって推移するからである。

ハ 文学作品が一種の実験であるということは、非写実的、非自然的な文学も含めて言えるが、探偵小説の場合、普通の「実験文学」とは特に区別しなければならない。探偵小説は実証性が強くなければならないからである。

ニ 裁判所の刑事裁判の忠実な筆記が、人性の真をうがった一つの立派な実験文学として読む人の心を動かすのは、それが生死の境といった重大な環境や日常茶飯事的環境に置かれた人間の行動を忠実に記録するからである。

(三) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

かくて、あるじのおとど、弁の君に聞こえたまふ。「神樂^{かみら}すべきが近うなりぬるを、水深く、陰涼^{かげりやう}しからむ所求められよ」。

弁の君、「東川には見えずなむはべる。^A 右大将殿の住みたまふ桂のわたりなむ、めづらかなる心ばへし出だされて、おもしろくはべる」。

「おとど」^I。かの殿の心とどめて造らせたまふと聞く所なり。家々の男どもにつけられたることだに、殿の例として、心殊に、事し出でらるるを、かの殿は、心に造らせたまふめれば、見所あらむ。人のし出だすことは、心に従ふものなり。興ある道にもすぐれ、朝廷の器^{うつは}にも整ひたまへる殿にこそあれ。人のしきにつきて見たまへしに、親王たち、上達部、ある限り参りたまふ中に、右大将、侍従、一つに奉りて下りたまひしこそ、ありがたく見えしか。そが中にも、侍従を見たまへしこそ、常はいとはしき女の子のよき、欲しかりしかな」とのたまふ。

かくて、君たち、方々に帰りたまふ。おとど、内^Cに参りたまひて、「などか涼みには出でたまはざりつる。釣殿御覽^{つりどのごらん}ぜさせむとしつるを。『闇の夜の錦』^Xとかいふやうなむ」。

宮、「人々涼みたまへれば。ここまてなむ」とて、

枝¹ごとに分かずや風の吹きつらむ籠¹もれる根さへ涼しかりつる

おとど、

² 奥山に松の古根を残しては岸になびくぞかひなかりける

などて、「神樂、十七日になむすべき。その設けさせたまへ」。

宮、「おもしろからむ所こそよからめ」。

おとど、「右大将のぬしの、仲忠が母据^{もゑ}をたまひたる所の、仲忠が心に入れて造らせたる所、思ほしやれ。³ またはありなむやは」などのたまふ。

かくて、御神樂に出で立ちたまふ。

(『うつほ物語』『祭の使』巻による)

(注) あるじのおとど：源正頼。文章中の「おとど」はいずれも正頼。

弁の君：左大弁源忠澄。源正頼の長男。

右大将：藤原兼雅。

人のしき：ここでは、人の有様のこと。

侍従：藤原仲忠。藤原兼雅の息子。

君たち：ここでは、正頼の姫君たち。

内：正頼とその妻「宮」の居室をさす。

宮：正頼の妻。大宮とも呼ばれる。

ここまてなむ：「ここまて涼しい松風が吹いてきて、楽の音も聞こえてきました」の意。

問十六 空欄

I

には、次のイ、二の四つの単語を組み合わせた一文が入る。必要に応じて活用語を活用させつつ適切に組み合わせたとときに三番目にくる単語を、イ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ あり □ かし ハ さ ニ む

問十七

二重傍線部 A「はべる」、B「たまへ」、C「参り」は、それぞれ誰に対する敬意を表しているか。最も適切なものを、次のイ、への中から一つずつ選び、その解答欄にマークせよ。

イ おとど □ 右大将 ハ 君たち ニ 侍従 ホ 親王たち、上達部 ヘ 宮

問十八

傍線部 1「籠もれる根」は歌の中で誰をたとえているか。最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ おとど □ 納涼の参加者たち ハ 姫君たち ニ 宮

問十九 傍線部2の歌の説明として最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 「奥山」の神々を残したまま「岸になびく」のは良くないので、神々のために神楽を実施すべきだとはのめかしている。

ロ 自邸では「松の古根」のような古びたものが残ったままなので、神楽は右大将殿で行いたいという願望を示唆している。

ハ 釣殿から臨む「奥山」の「松の古根」のように由緒あるものを、宮と一緒に見ることができなかったことが残念だったとしている。

ニ 宮が釣殿に來られなかったので、「岸になびく」涼風がその効用を発揮しえなかったことが残念だと伝えている。

問二十 傍線部3「またはありなむやは」の意味として最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ あるいは神楽以外の計画もありうるだろうか。

ロ そのほかにはふさわしい場所があるはずだろうか。

ハ 別の人が神楽を計画することはありうるだろうか。

ニ また別の日程を考える必要などあるはずだろうか。

問二十一 本文の内容と合致するものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ おとどは、右大将の所有する桂殿が神楽を実施するにふさわしいと考え、右大将の息子である侍従（仲忠）に準備の依頼をしている。

ロ 神楽の時期が近づいたとき、おとどは、その開催地として右大将の所有する桂殿こそがふさわしいという介の君の見解を肯定した。

ハ 侍従（仲忠）が母親を住まわせていた桂殿は右大将が所有していたもので、その造営に関して侍従の意向は反映されていない。

ニ 宮も、自邸よりも右大将の桂殿の方がふさわしいという見解を示したので、おとどは桂殿での神楽の実施を確定した。

問二十二 「うつほ物語」のことは、『枕草子』『源氏物語』などに言及がみられる。『うつほ物語』よりもあとに成立した作品を、次のイ、ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 大鏡 ロ 蜻蛉日記 ハ 後撰和歌集 ニ 日本霊異記 ホ 平中物語

問二十三 次の漢文は、古文の波線部X「闇の夜の錦」のもととなっている故事の一つである。これを読んで、あとの(1) (2)の問いに答えよ(返り点、送り仮名を省いた箇所がある)。

朱買臣、字翁子、吳人也。家貧、好讀書、不治產業、常艾薪樵、売以給食、担束薪、行且誦書。其妻亦負戴相隨、數止買臣毋歌道中。買臣愈益疾、歌妻羞之、求去。買臣笑曰、我年五十、當富貴、今已四十余矣。汝苦日久、待我富貴、報汝功。妻怒曰、如公等、終餓死溝中耳。何能富貴。買臣不能留、即聽去。後數歲、買臣隨上計吏為卒、將重車至長安。詣闕上書、書久不報。待詔公車、糧用乏、上計吏卒更乞匄。會邑子嚴助貴幸、薦買臣。召見、說春秋、言楚辭。帝甚說之、拜買臣為中大夫。其後、上拜買臣會稽太守。上謂買臣曰、富貴不歸故鄉、A衣ユ繡夜行。今子何如。買臣頓首辭謝。

〔漢書〕「朱買臣伝」による

〔注〕産業…生業。薪樵…たきぎ。重車…生活用具を満載した車。上計…地方政府から中央への会計報告。闕…宮殿や役所の門。公車…上書を取り扱う役所。乞匄…物乞いをして歩く。邑子…同じ郷里の者。嚴助…人名。吳の人。漢の武帝の側近。春秋…歴史書。楚辭…楚の地方の歌。會稽太守…朱買臣の出身地を管轄する郡の長官。繡…錦と同じ。頓首…頭を床に打ちつける礼。辞謝…感謝して拝命する。

(1) 傍線部a「數止買臣毋歌道中」に返り点を施す場合、最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 數止買臣毋歌道中。
ロ 數止買臣毋歌道中。
ハ 數止買臣毋歌道中。
ニ 數止買臣毋歌道中。

(2) 空欄Aに入る語として最も適切なものを、次のイ、ホの中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

- イ 使　ロ 莫　ハ 將　ニ 如　ホ 宜

問二十四 『うつほ物語』における波線部X「闇の夜の錦」と、『漢書』における波線部Y「衣繡夜行」に関する説明として最も適切なものを、次のイ、二の中から一つ選び、その解答欄にマークせよ。

イ 『うつほ物語』では、納涼の参加者たちにとって光り輝く錦のような存在である宮が出向かなかったことをふまえている。一方の『漢書』では、朱買臣が出世をしても故郷に帰ろうとせず、別の地をめざしていることが深夜を進んで行くようなものだたとえている。

ロ 『うつほ物語』では、美麗な錦のように魅力的な宮が納涼に参加せず、人気のない白身の居宅に籠もったことを意味している。一方の『漢書』では、朱買臣が故郷では気ままな暮らしをしていたのに、役人生活にすっぴきなじんでしまったことをたとえている。

ハ 『うつほ物語』では、宮がせっかく美しい錦の着物をまとっているのに納涼の参加者たちにそれを披露しなかったことを端的に示している。一方の『漢書』では、朱買臣が美しい衣装を実際に着たわけではないが、出世したことのたとえとして「衣繡」と表している。

ニ 『うつほ物語』では、立派に造った釣殿を、高貴にして品格もある宮に見てもらえなかった物足りなさが表されている。一方の『漢書』では、出世して高い地位を得た朱買臣が、その立派に変わった姿を旧知の人々に見せようとしなかったことのたとえとしている。

〔以下 余白〕